

地域おこし協力隊紹介 ～私と活動と、時々、暮し～

都市部から地方への移住を促進する国の制度「地域おこし協力隊」。個性溢れる隊員自らが活動を紹介するシリーズ！

《問合せ》地域づくり課 ☎21-9096

病院現場から「誰もが楽しめる旅」の推進へ

「障害の有無や年齢に関わらず、誰もが行きたい場所へ行ける社会にしたい」という思いは看護師を志した頃から変わりません。私自身、生まれつき片耳に難聴があり、社会のバリアを感じて育ったことが原点です。病院勤務を経て、海外の船旅に看護師として同行した際に、受け入れ態勢が整わず目的地に行けない方々の現実直面し、強いもどかしさを感じました。これが、誰もが気兼ねなく旅を楽しむ「ユニバーサルツーリズム(U T)」を推進する原動力となっています。

親孝行旅とU Tのつながり

城崎温泉のU T活動を知った時、かつて母に贈った城崎旅行の思い出がよみがえり、豊岡への移住を決めました。現在はU Tセンターでの相談や、体の不自由な方の「湯あみ介助」に携わっています。また、障害の有無にかかわらず誰もが楽しめるアウトドア活動を展開する団体「INCREW」の一員として、夏は車椅

vol.57

旅と福祉をつなぎ、

誰もが輝く豊岡へ

もり ひろ え
森 浩恵

大阪生まれ愛媛と岡山育ち。子どもの頃の入院経験から医療福祉の道へ。看護と保育、ヨガの経験や世界を2周する船上生活を経て、帰国後にユニバーサルツーリズムに取り組む。



子での海水浴、秋は木登り、冬はスキーなど、四季折々の自然の中での挑戦を支えています。こうした活動を通じ、誰もが取り残されない「インクルーシブ(包摂的)」な支援の意義を実感しています。

豊岡での挑戦とインクルーシブ

これまでの挑戦を活かし、現在は施設でヨガを教えるなど地域の健康福祉に関わっています。また、障害や難病のある兄弟姉妹をもつ子どもたちとSUPヨガやスキーなどを一緒に楽しみ、笑顔を共有する時間を持つことも大きな経験です。再開した手話をはじめ、盲ろう者通訳や移動サポートの習得にも励んでいます。これからも旅と医療福祉の接点となり、誰もが自分らしく過ごせる環境が日常に広がっていくよう、一歩ずつ前進していきたいです。



▲きょうだい児と一緒にスキーを楽しむ

多

様々な人々と共に生きよう

～多様性を受け入れ、支え合うまちに～

vol.20 西田ジェリンさん【フィリピン出身】

フィリピンのルソン島西側、海も山も美しい小さな町が私の故郷です。子どもの時はテレビでセーラームーンや仮面ライダーを見るのが大好きでした。日本で働いていた近所のお姉さんが時々チョコレートやカップヌードルなどのお土産をくれました。私も日本に行きたいと思いました。今、豊岡に住んで17年になります。

フィリピンでは、学校に行くのはお金持ちになるためだという考え方でした。しかし、日本に来て、子どもの教育に驚きました。子どもたちが学校の掃除をし、給食も自分たちで準備します。横断歩道を渡った子どもは、止まってくれたドライバーにお辞儀をします。日本の学校では、規律や礼儀、協力そして感謝の心を学ぶことができます。

長男が保育園に入った時は、まだ日本語が分からず、私も初めてでいろいろ分からな

外国人市民が増えています。このまちの一員として共に暮らし、地域を活性化していく市民としてお互いの理解を深めるため、外国人市民の皆さんの豊岡での暮らしなどをシリーズで紹介しています。

《問合せ》多様性推進・ジェンダーギャップ対策課 ☎23-0341

ったため、とても心配しました。保育園の先生は子どもの体温や朝ごはんについて、私にたくさん質問をしました。細かい質問に戸惑いましたが、今は子どものケアのためだったと分かります。おかげで長男は保育園で友だちとのコミュニケーションや社会性などたくさんを学ぶことができ、大変感謝しています。

今、子どもたちは小学生と中学生と高校生です。これからのことや将来の進路などが心配です。まだ分からないこともあります。周りの人たちに助けられています。

これからも家族を大事にして、3人の子どもの成長を見守っていきたいです。

(インタビュー：(一社)豊岡市国際交流協会)

